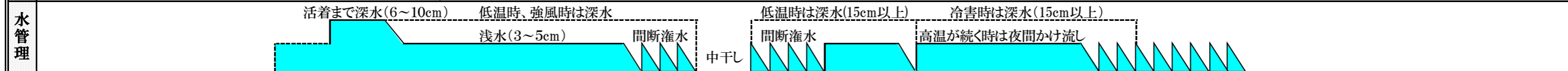


米作り栽培暦

(株) 渡嘉商店

月旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月																																												
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																										
生育区分	(出穂からの日数) -115 -110 -105 -100 -95 -90 -85 -80 -75 -70 -65 -60 -55 -50 -45 -40 -35 -30 -25 -20 -15 -10 -5 0 +5 +10 +15 +20 +25 +30 +35 +40 +45 +50 +55																																																														
	播種			出芽			緑化			硬化			田植え			活着期			分げつ開期			有効分げつ終止期			穂首分化期			最高分げつ期			幼穂形成期			穎花分化期			減数分裂期			開花期			出穂期			乳熟期			糊熟期			黄熟期			落水期			完熟期			収穫期		
	(田植えまでの日数) -35 -30 -25 -20 -15 -10 -5 0 (5月10日)																																																														



主な管理とポイント

- 種子消毒:** 12~15°Cで12~14日位積算水温で
- 播種:** 播種量厳守120~140g 薄まきて健苗育生に勤める
- 田植え:** 風の無い暖かい日に行うことで活着が早い
 - ◎ 活着温度 12.5°C以上
 - ◎ 活着水温 16~30°C
- 活着肥:** 必要に応じて
- 除草剤:** 中期剤
- 中干し:** 有効茎数の80%を確保してから強すぎる中干しは根切れの原因となる
- 追肥:** 幼穂形成期に葉色が濃く追肥が出来なかった場合
- イモチ病:** 穂揃い7日後に散布多発地帯は、7日後に2回目散布
- 適期落水:** 出穂後35日を目安に 早期落水はイモチ病の誘発を招くので注意
- 適期刈取り:** 籾の80%以上が黄化したことを確認する 籾体内の窒素分を少なくすることで食味が向上 出穂開期から積算温度で900~1,050°Cが目安

月旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

農薬防除体系

- ◆ 種子消毒:** スポルタックスターナSE (200倍/24時間) ※温湯消毒の場合は、60°Cで10分間浸漬後冷水処理の要項を厳守のこと。
- ◆ 播種・箱土消毒:** タチガレエース液(1000倍) ダコニール1000(1000倍)
- ◆ 除草剤散布 (田植え直後):** <初期剤>バレージ粒(10a/3kg)・マーシエツ粒(10a/3kg) <一発処理>カウシルコンプリート(10a/1kg) <一発処理>月光粒剤/イッポン粒剤(10a/1kg)
- ◆ 除草剤散布 (中期剤):** <中期剤>ワイドアタックD(10a/1kg) <中期剤>アトカラSジャンボ(10a/20個) <ヒエ専用>ワンステージ
- ◆ 箱剤散布:** ブイケットハリアート粒(1箱当り/50g)
- ◆ 除草剤散布 (中干し):** バサグラン粒・液(中干し散布) ヒエクリーンバサグラン(10a/3kg)
- ◆ 紋枯れ病防除 (発病時):** モンカット粉DL(10a/3kg)
- ◆ イモチ病防除:** コラトップ粒(10a/1kg) フジワン粒(10a/3kg)
- ◆ カメムシ防除:** ダントツ粉DL(10a/3kg) (スミチオン・Mrジョーカー)
- ◆ イモチ病防除 (発生時):** ブラシン粉DL(10a/3kg)

※ 除草剤の体系処理の場合は必要に応じて後期剤も活用する
 ※ クログワイ・シズイ対策のバサグランは落水後で幼穂形成期前に散布すること
 ※ カメムシ多発の場合はMrジョーカー散布
 ※ イモチ病が防除後でも止まらない場合は粉剤・液剤の追加散布で確実に防除する

◇ 基本施肥設計 ◇

項目	品名	1袋当り成分					10a当りの施肥量		10a当り成分量 (kg)					備考
		窒素	リン酸	加里	苦土	珪酸	使用kg数	使用袋数	窒素	リン酸	加里	苦土	珪酸	
土作り (土壌改良材)	グリーンドレッシング	1.5	5.0		1.0		80 kg	4 袋						醗酵微生物堆肥
	スーパーミネラル				2.0	45.0	40 kg	2 袋				0.8	18.0	良質珪酸、各種ミネラル補給
元肥	宇部有機珪酸入り一発	15.0	15.0	15.0		4.2	50 kg	2.5 袋	7.5	7.5	7.5		2.1	追肥体系の場合は減肥のこと
活着肥	めぐみ緑	14.0	6.0	8.0			(10) kg	0.5 袋	(1.4)	(0.6)	(0.8)			必要に応じて(5~10kg)
調節肥	マグホス		17.0		3.5		20 kg	1 袋		3.4		0.7		秋落ち倒伏防止穂数籾数確保
	ハイグリーン				14.0	16.0	15 kg	1 袋				2.1	2.4	登熟向上、千粒重増加
穂肥	NK 5 4 5	15.0	4.0	15.0			(10) kg	袋	(1.5)	(0.4)	(1.5)			必要に応じて(出穂25日前頃)
成分合計									7.5	10.9	7.5	3.6	22.5	
活着肥+穂肥使用の場合(元肥は40kgとする)									(8.9)	(10.4)	(8.3)	3.6	22.5	

※ 苗の育苗は、徒長させず各散布材を効率よく使用し根張りを良くする

多木有機液肥	200倍/0.50	成長促進(田植え前に弁当肥としても効果大)
M O X	100倍/0.50	酸素補給(ムレ苗に50倍散布)
サ ム	1000倍/0.50	成長促進、ミネラル補給
M P B	1000倍/0.50	アミノ酸補給、気象ストレス対策

※ 調節肥は、稲体の強化させ耐病性、登熟、食味向上に効果有り
 ※ 穂肥は、基本的に体系施肥の場合とし、出穂25日前の施肥とする
 過剰施肥は、イモチの誘発、食味の低下をまねくので注意のこと
 特に、出穂10日前頃の追肥は、食味の低下に影響有り
 ※ 収穫後の耕起時(秋掘り)に稲わら腐植資材(豊土サングリーン)を散布
 雑草の多発田には、石灰窒素の施用も効果有り